

明星桜は、浦内淡路守^{これ}惟久と言う人が、今から910年前の平安時代（浦内神社の祠に、永保2年^{みずのえいね}壬戌8月16日白河帝御宇としてある）京都山代国壬生から、肥前国松浦党祖源久公をたより、この地に来て、浦川内に住み付き、望郷の念にかられて、山代の地名と、明星桜と、梅と、大念佛とを、この地に伝え植えたものであります。大念佛は今尚、脇野に伝承されている。明星桜は、花弁が小さく固まって咲くのが特徴で、エドヒガンザクラ系であります。夜る、樹の下で焚火をすれば花が、キラキラと星の様に輝き神秘的なところから明星桜と呼ばれています。今は4本の株立ちから成り、大きいもので目通り周囲が2m、全体の株周り6m、枝張り25m、樹高15mであります。春花が満開すれば、山代郷は言うに及ばず、遠くは対岸の瀬戸の農民にまで、ウリ、ナス、カボチャ等春野菜の蒔き付け時期を知らせ、それから春耕、カシキ切り、田植の準備が始まったそうです。花が多く咲けば豊作、少なければ不作、上の方に多く咲けば風は無し、下の方に多ければ風年といわれています。この様に春を、蒔き付け時期を、豊凶を、900年もの長きに渡り里びと達に告げて来た桜であります。

